

第二回理事會協議要録

昭和十九年三月三十一日(金)午前十一時半ヨリ於文部省教學課分室

出席者

近藤理事 大岡理事 西尾理事

根道理事 相良理事 關野理事

長沼理事兼總主事 山口主事 上村主事

配布書類

第一回理事會協議要録

第二回理事會報告及議題

處務規程案

特別會計規程案

協議事項

副會長理事長常務理事選任ノ件

副會長理事長ハ原案通り決定常務理事ニハ理事兼總主事長沼直兄氏

ヲ推薦スルコトニ意見一致セリ。

第一條ノ「規則」ヲ「奇附行爲」ト訂正シ第二條ノ「(四)」ヲ「一」措シテ

- 「(七) 日本語教育關係者ノ指導育成及其ノ連絡ニ關スル事項」トシ
 第四條曰「並ニ」ヲ「及」トシ(四)「各種研究」ヲ「各種ノ研究物」
 トス
- 三 特別會計設定及特別會計規程ノ件
 原案通り決定セリ
- 四 總主事委任事項ノ件
 常務理事ト總主事ト別人ナル場合ヲ考慮シ更ニ研究ノ上再審議スル
 コト
- 五 秘密會(人事及建物購入ニ關スル件)

財團法人日本語教育振興會 第二回理事會

昭和十九年三月三十一日(金) 午前十一時半ヨリ於文部省教學局長應接室

一、報告

昭和十九年三月二十三日附ヲ以テ財團法人日本語教育振興會ノ設立登記申請ヲナシタリ

二、議題

一、副會長 理事長 常務理事選任ノ件

(一) 副會長 文部次官 大東 昭次官

(二) 理事長 現理事長

(三) 常務理事

二、處務規程ノ件

三、特別會計設定及特別會計規程ノ件

四、總主事委任事項ノ件

手印設置

日本語教育振興會

東京市錦町區文部省內

日本語教育振興會處務規程

(昭和十九・三・三一)

第一條 本會第三條ニ依ル事業ヲ遂行スル爲本會ニ左ノ部ヲ置ク

一、總務部

二、研究部

三、事業部

第二條 總務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、人事ニ關スル事項

二、印及鍵ノ保管ニ關スル事項

三、文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項

四、關係官廳及各種團體トノ折衝ニ關スル事項

五、會計經理ニ關スル事項

六、資產及物品ニ關スル事項

七、日本語教師ノ養成及再教育ニ關スル事項

八、日本語指導者ノ指導育成ニ關スル事項

九、外地並ニ現地下ノ連絡ニ關スル事項

その他部ノ所管ニ關セザル事項

第三條 研究部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、日本語教育ニ必要ナル研究及調査ニ關スル事項

二、日本語教育ニ必要ナル資料ノ研究及調査ニ關スル事項

三、其他日本語ノ普及ニ必要ナル研究及調査ニ關スル事項

第四條 事業部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、日本語教科用圖書ノ刊行及頒布ニ關スル事項

二、雜誌ノ編輯、刊行及頒布ニ關スル事項

三、日本語教育資料ノ作成並ニ頒布ニ關スル事項

四、各種研究及調査物ノ刊行並ニ頒布ニ關スル事項

第五條 各部ニ部長一名ヲ置ク

部長ハ本會役員及職員ノ中ヨリ理事長之ヲ命ズ

第六條 各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

附則
附則ハ別ニ之ヲ定ム
附則ハ別ニ之ヲ定ム
附則ハ別ニ之ヲ定ム

財團法人日本語教育振興會會計規程

(昭和一九三三、三一)

第一章 總 則

第一條 本會ノ會計事務ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 歳入及歳出ノ年度所屬區分ハ政府ノ歳入及歳出ノ年度所屬區分ニ依ル

第四條 政府助成金、寄附金及資産ヨリ生ズル收入其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トス

第五條 毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ支辨スベシ

第六條 毎年度所屬ノ收入及支出ノ出納ハ翌年度四月三十日限トス

第二章 資 産

第七條 本會ノ資産ハ寄附金品並ニ物件及其ノ他ノ收入ヨリ成ル

第八條 資産ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ現状ヲ明瞭ナラシムベシ

第九條 資産中其ノ一部ヲ基本財産ト爲スコトヲ得

第十條 資産ハ常務理事管理ノ下ニ總務部主事之ヲ保管ス現金ハ郵便官署若ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ、信託會社ニ信託シ又ハ國債若ハ確實ナル有價證券ヲ買入ルルモノトス
前項ノ國債、有價證券ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ保護預ト爲スベシ

第三章 豫算及決算

第十一條 理事長ハ毎年二月末日迄ニ次年度ノ歳入歳出豫算ヲ編成シ

會長ノ裁定ヲ受クベシ

臨時必要アルトキハ理事長會長ノ裁定ヲ經テ豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第十二條 歳入歳出豫算ハ款項目ニ區分シ成ルベク經費ノ性質目的ヲ明ニスベシ

第十三條 經費ハ豫算ノ款項ニ定メタル目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ理事長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ限り各項目ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得

第十四條 避クベカラザル事情ノ爲當該年度内ニ支出ヲ了セザル費用ニ付テハ其ノ經費ヲ次年度ニ繰越使用スルコトヲ得

前項ノ繰越ヲ必要トスルトキハ次年度五月末日迄ニ繰越ヲ要スル項目ノ豫算額・支出濟額及不用額・繰越使用額ヲ記載シタル繰越計算書ヲ作成シ監事ノ承認ヲ受クベシ

第十五條 豫算ノ不足ヲ補フ爲又ハ豫算外ニ生ジタル必要ノ費途ニ充ツル爲豫備費ヲ設クベシ

第十六條 數年ニ亘ルベキ經費ノ支出ハ繼續費ト爲スコトヲ得

第十七條 理事長ハ毎年六月末日迄ニ豫算ノ様式ニ從ヒ前年度ノ決算ヲ調製シ基本財産其ノ他ノ資産ノ計算ト共ニ監事及會長ノ承認ヲ經ベシ

第十二條ノ規定ハ決算ニ之ヲ準用ス

第十八條 決算ノ結果歳計剩餘アル場合ハ翌年度ノ經費ニ之ヲ繰越スベシ但シ會長ノ裁定ヲ經テ臨時事業ノ財源又ハ歳入不足ノ補填ニ充用スル爲其ノ一部ヲ積立ツルコトヲ得

前項ノ積立金ハ一般資金ト區分經理シ之ガ處分ヲ爲サントスルトキハ會長ノ裁定ヲ經ルコトヲ要ス

第四章 收入及支出

第十九條 收入支出ハ總テ常務理事ノ決裁ヲ經、總務部主事之ヲ執行
スルモノトス

第二十條 收入金アルトキハ直ニ收入傳票ヲ作成シ手續ヲ了シタル後
銀行又ハ郵便官署ニ預入スベシ

第二十一條 支拂ヲ要スルトキハ支拂傳票ヲ作成シ手續ヲ了シタル後
之ガ支拂ヲ爲スベシ

第二十二條 經費ノ支拂ハ銀行小切手振出ノ方法ニ依リ常務理事ノ名
儀ヲ以テ執行スルモノトス但シ俸給給料手當其ノ他現金ヲ以テ交付
スルヲ便宜トスルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ當該
銀行ヲシテ送金セシメ其ノ旨ヲ債主ニ通知スベシ但シ郵便爲替又ハ
振替貯金ノ方法ニ依ルコトヲ得

第二十四條 各種ノ講演會講習會打合會若ハ懇談會等ノ諸經費諸謝金
ノ額又ハ其ノ都度支拂ヲ爲スヲ便宜トスル經費ニ關スル資金ハ之ヲ
前渡スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ前渡ヲ受ケタル役員職員ハ事項終了後七日以内ニ
支拂精算書ヲ提出スベシ

第二十六條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得
一、旅費

前項ノ概算拂ヲ受ケタル者ハ歸着後一週間以内ニ精算書ヲ提出スベ
シ
第二十七條 前渡金精算ノ爲又ハ誤拂若ハ過拂金ノ返還金アリタルト
キハ其ノ金額ハ之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スベシ但シ當該年
度出納閉鎖期限迄ニ戻入ヲ了ラザルモノハ翌年度ノ歳入ニ受入ルベ
シ

第二十八條 收入金又ハ支拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ

端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス
第二十九條 毎月分ノ收入支出ハ翌月十五日迄ニ其ノ計算書ヲ作成シ
理事長ノ査閲ニ供スベシ

第三十條 收入支出ニ關スル書類ハ領收證其ノ他ノ證憑書類ヲ附シ決
算ノ款項目ノ區分ニ從ヒ編纂保管スベシ

第三十一條 收入支出ハ何レモ帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ヲ記帳スベシ

第五章 契約

第三十二條 賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ニシテ特ニ重要ナルモノ
ニ付テハ總テ指名競争ニ附スベシ

前項以外ノモノニ付テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第三十三條 契約ヲ爲サントスルトキハ契約ノ目的、履行期限、契約
條項其ノ他必要事項ヲ記載シタル契約書ヲ作成シ理事長又ハ其ノ委
任ヲ受ケタル者之ニ記名捺印スベシ但シ輕易ナルモノニ關シテハ之
ガ作成ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條 指名競争ニ附セントスルトキハ成ルベク五人以上ノ入札
者ヲ指定シ隨意契約ニ依ラントスルトキハ成ルベク二人以上ヨリ見
積書ヲ徴スベシ

第六章 物品

第三十五條 圖書出版物ヲ除ク物品ノ保管ハ總主事管理ノ下ニ總務部
主事之ガ事務ヲ執行スルモノトス

第三十六條 圖書出版物ヲ除ク物品ノ出納ハ總テ總主事ノ決裁ヲ經總
務部主事之ヲ執行スルモノトス

第三十七條 圖書出版物ノ保管ハ總主事管理ノ下ニ事業部主事之ガ事
務ヲ執行スルモノトス

第三十八條 圖書出版物ノ出納ハ總テ總主事ノ決裁ヲ經事業部主事之
ヲ執行スルモノトス

第三十九條 物品ハ出納簿ヲ備ヘ其ノ出納ヲ記入スベシ

第七章 雜 則

第四十條 本規程施行上必要ナル細則竝ニ諸帳簿様式ハ理事長別ニ之ヲ定ム

第四十一條 本規程ニ據リ難キモノハ國庫會計事務ニ準ジ之ヲ施行スルモノトス

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

財團法人日本語教育振興會給與規程（昭和一九、三、三一）

第一章 總 則

第一條 財團法人日本語教育振興會職員ノ俸給給料手當並ニ役員及職員ノ旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 本規程ニ於テ職員トハ總主事、主事、書記、研究員、事務員及傭人ヲ謂フ

第三條 本規程ニ定ムルモノノ外理事長ハ必要アル場合給與ニ關スル内規ヲ定メ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

第二章 俸給、給料、手當

第四條 職員ノ俸給ハ別表第一號ニ依ル但シ研究員、事務員及傭人ノ給料手當ハ理事長別ニ之ヲ定ム

第五條 職員ニシテ五年以上一級俸ヲ受ケ在職シ成績顯著ナル者ニハ特ニ別表第一號上欄ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第六條 俸給給料手當ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス但シ日給者ニシテ新ニ採用セラレタルトキハ發令ノ當日ヨリ之ヲ計算ス

第七條 年俸（十二分ノ一）及月俸ノ支給日ハ毎月下旬トス日給者ニ在リテハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ分ニ付前項ノ規定ヲ適用ス但シ三月十六日ヨリ同月末日迄ノ分ノ給料ニ付テハ適宜之ヲ支給ス

第八條 年俸又ハ月俸ヲ受クル者退職又ハ死亡シタルトキハ當月分俸給給料又ハ手當ノ全額ヲ支給ス

第九條 年俸又ハ月俸ヲ受クル者病氣ノ爲出勤セザルコト九十日ヲ超ユルトキ及私事ノ故障ニ依リ出勤セザルコト三十日ヲ超ユルトキハ俸給給料又ハ手當ノ半額ヲ減ズ但シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ

雇リ又ハ理事長ニ於テ事情已ムヲ得ザルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 日給ヲ受クル者ノ給料手當ハ休日・忌引及父母ノ祭日ハ之ヲ支給シ病氣及私事ノ故障ニ依リ出勤セザルトキハ其ノ期間中之ヲ支給セズ

第十一條 俸給給料及手當ノ日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第三章 旅 費

第十二條 役員及職員會務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ別表第二號ノ定額ニ依リ、本邦及外國・南洋群島・關東州又ハ滿洲間ヲ旅行スルトキハ別表第三號ノ定額ニ依リ旅費ヲ支給ス

第十三條 顧問・參與・評議員及事項囑託員ノ旅費額ニ關シテハ前條ノ定額ノ範圍内ニ於テ理事長別ニ之ヲ定ム

第十四條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車

馬賃ヲ支給ス但シ會務ノ都合ニ依リ航空機ニ塔乗シタルトキハ其ノ賃金ノ實費ヲ支給ス

第十五條 宿泊料ハ夜數ニ應ジ日當ハ日數ニ應ジテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ但シ天災其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲上陸宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船賃ヲ要セザルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應ジテ之ヲ支給ス

第十六條 會用ノ船車馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セズ

第十七條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 東京都内ノ出張ニ對シテハ鐵道賃及車馬賃ノ實費ヲ支給ス但シ特別ノ事由アルトキハ日當定額ノ半額及宿泊料ヲ支給スルコト

ヲ得

第十九條 赴任ノ場合ハ別ニ家族移轉旅費及移轉料其ノ他之ニ伴フ諸費ノ實費ヲ支給ス

第二十條 外國・南洋群島・關東州・滿洲國ニ赴任又ハ出張ヲ命ゼラレタル者ニハ別表第三號ノ支度料ヲ支給スルコトヲ得
前項ノ者ニシテ特別ノ事由アル場合ハ特ニ手當ヲ支給スルコトヲ得但シ手當ノ額ハ理事長其ノ都度之ヲ定ム

第二十一條 本邦ト外國・南洋群島・關東州又ハ滿洲國間トノ旅行ノ爲ノ通過地ノ旅行ニ付テハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス

第二十二條 外國・南洋群島・關東州・滿洲國ヘノ赴任又ハ出張ニ關シ命令ヲ受ケタル者其ノ出發前死亡シ又ハ旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ費消シタル移轉料其ノ他ノ諸費及支度料ノ全額以內ヲ

支給スルコトヲ得

第二十三條 在勤又ハ旅行中死亡シタル場合ハ本邦内ニ在リテハ其ノ歸還旅費ニ相當スル金額ヲ外國・南洋群島・關東州・滿洲國ニ在リテハ別表第三號ノ死亡手當ヲ遺族ニ支給ス

第二十四條 年又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ達シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第二十五條 理事長必要アリト認ムルトキハ旅費ノ定額ヲ減ジ若ハ一定ノ渡切旅費ヲ支給シ又ハ旅費ノ一部若ハ全部ヲ支給セザルコトヲ得

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

第一號

區分	加俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
總主事 (年俸)	年二〇〇〇圓	四二〇〇圓	三八〇〇圓	三四八〇圓	三二四〇圓	三〇〇〇圓	二七六〇圓	二五〇〇圓	二二四〇圓	一九四〇圓	一七三〇圓
主事 (年俸)	年九〇〇圓	三三六〇圓	三〇〇〇圓	二七六〇圓	二四〇〇圓	二一六〇圓	一九二〇圓	一七四〇圓	一五〇〇圓	一四四〇圓	一三三〇圓
書記 (月俸)	月六〇圓	一六〇圓	一三五圓	一二五圓	一〇〇圓	九〇圓	八〇圓	七〇圓	六〇圓	五五圓	五〇圓

備考 本表ハ職員ニシテ別ニ官職ヲ有スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二號

區分	會長
内地旅行ニ對スル鐵道賃、船賃、車馬賃、日常、宿泊料及食卓料	内地旅行規則ニ依リ親任官ニ支給スベキ額
朝鮮、臺灣、樺太内旅行ニ對スル鐵道賃、船賃、車馬賃、日常、宿泊料及食卓料	大東亞省所管内旅費規則ニ依リ親任官ニ支給スベキ額
朝鮮、臺灣、樺太内旅行ニ對スル支度料	大東亞省所管内親任官ニ支給スベキ額

理事會長	副理事長	總理	總主事	主事 (五級以上)	主事 (六級俸以下)	研究員 甲	研究員 乙	書記	事務員	傭人
同 勅任官ニ支給スベキ額	同 勅任官ニ支給スベキ額	同 勅任官ニ支給スベキ額	同 奏任官五等以上ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	大東亞省所管内國旅費規則ニ依リ職員ニ支給スベキ額	同 傭人ニ支給スベキ額
同 勅任官ニ支給スベキ額	同 勅任官ニ支給スベキ額	同 奏任官五等以上ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同 職員ニ支給スベキ額	同 傭人ニ支給スベキ額
同 勅任官ニ支給スベキ額	同 勅任官ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同 職員ニ支給スベキ額	同 傭人ニ支給スベキ額
同 勅任官ニ支給スベキ額	同 勅任官ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同 奏任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同 職員ニ支給スベキ額	同 傭人ニ支給スベキ額

備考 研究員ニ對スル旅費中甲額乙額ノ支給區分ハ理事長其ノ都度之ヲ決定ス

第三號

區分	會長	副會長	理事	總理事主	主事	研究員	書記	事務員	備人
外國旅行ニ對スル鐵道賃、船賃、車場賃、日常、宿泊料、食卓料、支度料及死亡手當	外國旅費規則ニ依リ親任官ニ支給スベキ額	同助任官ニ支給スベキ額	同助任官ニ支給スベキ額	同奏任官五等以上ノ者ニ支給スベキ額	同奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	甲 同奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額 乙 同判任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同判任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	大東亞省所管待遇官吏其ノ他外國旅費規則ニ依リ雇員ニ支給スベキ額	同備人ニ支給スベキ額
南洋群島、關東州、滿洲旅行ニ對スル鐵道賃、船賃、車馬賃、日常、宿泊料、食卓料、支度料及死亡手當	南洋群島、關東州、滿洲旅費規則ニ依リ親任官ニ支給スベキ額	同助任官ニ支給スベキ額	同助任官ニ支給スベキ額	同奏任官五等以上ノ者ニ支給スベキ額	同奏任官六等以下ノ者ニ支給スベキ額	同判任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	同判任官五級俸以上ノ者ニ支給スベキ額	大東亞省所管待遇官吏其ノ他南洋群島關東州滿洲旅費規則ニ依リ雇員ニ支給スベキ額	同備人ニ支給スベキ額

備考 研究員ニ對スル旅費中甲額及乙額ノ支給區分ハ理事長其ノ都度之ヲ決定ス

戰時勤勉手當支給内規

第一條 本會職員・事務員及傭人ニシテ毎月一定ノ俸給・給料又ハ手當ヲ受ケ且當時勤務ニ服スル者ニハ時局ノ影響ニ依ル特別ノ事情存スル間俸給・給料又ハ手當ノ一割ニ相當スル金額ノ戰時勤勉手當ヲ支給ス

第二條 年俸又ハ月俸ヲ受クル者ニシテ私事ノ故障又ハ病氣等ノ爲缺勤中ノ者ニ對シテハ其ノ俸給全額ノ支給ヲ受ケ得ル期間ニ限り戰時勤勉手當ヲ支給ス

第三條 退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ月分ノ戰時勤勉手當ハ其ノ全額ヲ支給ス

第四條 本内規ニ定ムルモノノ外戰時勤勉手當ノ支給ニ付テハ俸給・給料又ハ手當支給ノ例ニ依ル

附 則

本内規ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本語教育振興會臨時家族手當支給内規

第一條 本會職員及囑託ニシテ毎月一定ノ俸給給料又ハ手當ヲ受ケ且常時勤務ニ服スル者・事務員及傭人ニシテ左ニ掲グル扶養家族（同一戸籍内ニ在リ主トシテ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者）ヲ有スル者ニハ當分ノ内其家族一人ニ付月額五圓ノ割合ヲ以テ臨時家族手當ヲ支給ス

一、配偶者（内縁關係ニ在ル者ヲ含ム）

二、滿六十歳以上ノ直系尊族

三、滿十八歳未滿ノ直系卑族（養子縁組ニ因ル者ニ付テハ法定推定家督相續人ニ限ル）

四、滿十八歳未滿ノ弟妹（弟妹ノ生計費ノ概ネ全額ガ當該職員ノ收入ニ依リ維持セラレ居ル場合ニ限ル）

五、不具癡疾者

第二條 臨時家族手當ヲ受ケントスル者ハ臨時家族手當ニ關スル扶養家族届ヲ理事長ニ提出スベシ

扶養家族ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第三條 臨時家族手當ノ支給ヲ受クベキ要件ヲ具備スルニ至リタル場合ハ届出ノ翌月ヨリソノ支給ヲ開始シ之ヲ缺クニ至リタル場合ハ事實發生ノ翌月ヨリ其ノ支給ヲ廢止ス

第四條 退職若ハ死亡ノトキ又ハ私事ノ故障等ニ依リ俸給給料又ハ手當ノ支給ヲ受ケザルニ至リタルトキハ其ノ翌月ヨリ臨時家族手當ハ之ヲ支給セズ

附 則

第五條 本内規ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 本内規ニ依リ臨時家族手當ヲ受クベキ者ハ四月一日現在ニ依

リ臨時家族手當ニ關スル扶養家族届ヲ四月三十日迄ニ理事長ニ提出
スベシ
前項ニ依リ届出ヲ爲シタル者ニ對スル臨時家族手當ハ第三條ニ拘ラ
ズ昭和十九年四月分ヨリ之ヲ支給ス

臨時家族手當ニ關スル扶養家族（異動）届

昭和 年 月 日

日本語教育振興會理事長

殿

扶養家族ノ氏名	生年月日	職 業	績 柄	不具廢疾ノ事實	扶養家族ノ收入種類	月收額	備考（異動事由等）
						圓	
						圓	

日本語教育振興會
東京市麹町區文部省内

(昭和一九、三、三一)

財団法人日本語教育振興會圖書刊行特別會計規程

第一條 本會ノ事業中助成金ニヨラザル圖書ノ刊行頒布ノ爲運轉資金ヲ置キ圖書刊行特別會計ヲ設置ス

第二條 本特別會計ハ事業ニ關スル收入及運轉資金ニ關スル收入ヲ以テ歲入トナシ事業ニ關スル支出ヲ以テ歲出トナス

前項ノ運轉資金ハ椎名義雄ヨリ受ケタル金壹萬圓及之ヨリ生ズル收入並ニ事業上生ジタル益金トス

第三條 收入及支出ハ總テ常務理事ノ決裁ヲ經ベシ

第四條 總主事ハ毎月末日ニ於ケル資産及負債ノ狀態ヲ示スベキ試算表ヲ作製スベシ

第五條 理事長ハ毎年三月三十一日現在ニ於ケル損益ヲ明ニスルタメ期末ニ於ケル財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作製シ會長

及幹事ノ承認ヲ經ベシ

第六條 本規程施行上必要ナル細則及諸帳簿ノ様式並ニ勘定科目ハ理事長之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

財団法人日本語教育振興會委任事項

(昭和一九・三・三一)

左ニ掲グル事項ハ^{事務主任}主事ニ之ヲ委任ス

- 一、書記及事務員ノ事務分擔ニ關スルコト
- 二、事務員備人ノ進退身分竝ニ服務ニ關スルコト
- 三、書記以下ノ休暇諸届ニ關スルコト
- 四、書記以下ノ出張ニ關スルコト
- 五、現金及有價證券ノ管理ニ關スルコト
- 六、物品及不動産ノ管理ニ關スルコト
- 七、圖書及出版物ノ管理ニ關スルコト
- 八、一件五百圓以下ノ管理竝ニ物品ノ購入修理及賣却ニ關スルコト
- 九、支拂義務確定經費ノ支出ニ關スルコト
- 一〇、收入事務ニ關スルコト

一一、其ノ他各部ニ屬スル輕易ナル事務ニ關スルコト